


中学校生活を充実させるためのアドバイスを『論語』の一節を引用して伝えよう

～『論語』に表れているものの見方や考えから、身近なことについて思いを巡らせ、自分の考えをまとめる～

発行
令和5年12月
中部教育事務所



土佐市立高岡中学校 教材 第3学年「論語」
(東京書籍『新しい国語3』)

〈本単元で育成を目指す資質・能力〉

- ◇長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使う力 [知識及び技能](3)イ
- ◇文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ力 [思考力・判断力・表現力等]C(1)エ
- ◇言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度 [学びに向かう力、人間性等]

授業の概要

重点指導事項 C 読むこと(1)エ
「論語」を読んで考えを広げたり深めたりして、身近な事例と関連付けて自分の考えをもつ。

本単元では「論語」を読んで、その言葉に表れている孔子の考えを分かりやすくまとめ、評価し合うという言語活動を設定した。ここでは、より多くの「論語」に触れさせるために、学校図書館をはじめ、地域の図書館やオーテピアの電子書籍を活用し、単元に入る1月前から朝読書や家庭での時間に並行読書を実施した。単元ゴールはC(1)エの力を付けることである。「論語」を読んで、理解したことと身近な事例を関連させ、2年生に向けて中学校生活を充実させるためのアドバイスを『論語』の一節を引用して伝える。

教材研究会のポイント

協議の視点

- 1 付けたい資質・能力(C(1)エ)が育成できる単元構成となっているか。
- 2 本時が単元で付けたい資質・能力を育成するための効果的な授業展開になっているか。

参観者からの意見

- ・比較する視点を挙げることで、足りない点を見つけて深めることができる。
- ・「推敲する前」と「推敲した後」を残しておくことで友達の考えを自分の考えにいかしたかどうかが見とれる…等

「フィードバックと学習改善・指導改善の工夫」 鈴木太郎 文部科学省教科調査官の講話 より

単元で育成を目指す資質・能力に関する「Bと判断する状況」の具体的な想定

「読むこと」について、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。

表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。例えば、**簡潔な述べ方と詳細な述べ方、断定的な述べ方と断片的な述べ方、敬体と常体、和文調の文体と美文調の文体、描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法などに着目することが考えられる。**これらについて考える際には、根拠を明確にすることを重視する必要がある。具体的に、例えば、文章の構成や展開、表現の効果について**自分の考えを書いたり発表したりする際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げる**ことが考えられる。【解説】p.70

「Bと判断する状況」の例

- ① 簡潔な述べ方と詳細な述べ方、描写の仕方や表現の技法などに着目して、表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかについて自分の考えを述べている。
- ② 自分の考えを支える根拠となる文章中の表現を挙げている。

「評価規準」とは、観点別学習状況の評価を的確に行うための学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断する拠り所を表現したものです。

単元で育成を目指す資質・能力は、学習指導要領が示す資質・能力です。学習指導要領解説で内容を確認します。

「おおむね満足できる」状況(B)は、生徒の具体的な姿で想定しておきます。

フィードバックと学習改善・指導改善の工夫

現代語訳ではいろいろなことに使っていた「竹」としか書いていないけれど、「竹取の翁」は竹を使った品を作っているから、**学校図書館で見つけた「竹取物語」は、「笠、傘、籠、籠、籠、籠、籠」と全てに「竹」が入っている漢字を使って表している。**

その表現は、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかについて自分の考えを述べている。

現代語訳ではいろいろなことに使っていた「竹」としか書いていないけれど、**学校図書館で見つけた「竹取物語」は、「笠、傘、籠、籠、籠、籠、籠」と全てに「竹」が入っている漢字を使って表している。**これは、「竹取の翁」が作っているものを詳しく書くことで、作っている情景を読者に想像させる働きがある。

R5 全国学力・学習状況調査 大問4三

この生徒の解答は、文章中の表現を用いて書けていますが、表現の効果に関する考えは書かれていません。そのため、「Cと判断される」状況の解答となります。

そこで、このようなフィードバックを行います。

そして、「おおむね満足できる」状況(B)に引き上げていきます。

学習の目標の共有

フィードバックと学習改善・指導改善の工夫

前時の学習活動
[A]又は[B]
[C]
[C]
生徒の学習状況を把握し、課題がみられる学習状況を効果的に改善する指導を工夫

本時の学習活動
全体での学習
グループでの学習
[A]又は[B]
[C]
[C]
生徒の学習状況を把握し、課題がみられる学習状況を効果的に改善する指導を工夫

生徒の学習状況を把握し、評価をフィードバックしたり、一斉指導としてエラーモデルを示したりといった学習改善・指導改善の工夫をおこなう。

手段の明確化
授業の中で試行錯誤する場を設定(未知の場面で課題解決できる力の育成)

要確認!
単元ゴールは、単元を通して育成を目指す資質・能力が身に付くこと。

◆言語活動を通して、資質・能力を育成する。
→単元のゴールは「資質・能力の育成」
◆「資質・能力」を発揮した生徒の姿を想定する。
→「Bと判断する状況」の想定、生徒作品例の作成
→言語活動や授業展開の見直し
◆適切な評価とフィードバック、学習の改善によって「力の育成」を目指す
→指導と評価の一体化、実現可能な評価場面・方法を計画

授業研究会のポイント

学習活動	指導上の留意点
【事前】朝読書の時間を使って『論語』を事前に読ませておく。(電子書籍の活用・並行読書)	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、本時の課題を確認するとともに学習の見直しをもつ。 ・本時では、思いが伝わるメッセージになるように評価し合い、自分のメッセージをブラッシュアップする。 ・最後に「このような意図をもって、メッセージのこの部分を書き直しました。」と振り返るように指示しておく。 ・評価のポイントは、正しく引用していること、引用した『論語』に対するものの見方や考え方を踏まえること、現代に通じる適切な体験や事例を用いることだと確認する。 ・加えて、相手意識をもつということは、わかりやすい言葉への言い換えや補足、事例が誰もが納得するものになっているか等の評価のポイントを示す。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での自分のメッセージを、評価項目に沿ってチェックする。(項目ごとに色分けしながら評価する。) ・評価の観点を示す。 ・自己評価を参考にしながら、足りない部分を補えるように、評価、アドバイスし合う。 ・評価項目に沿って考えさせる。 ・グループ(3~4人)で評価し合う。 ・それぞれのメッセージをチェック項目に沿って相互評価をする。 ・グループ活動の途中、必要であれば、途中経過の全体共有を行い、よいアドバイスを共有する。 ・グループ交流で得たアドバイスをもとに加筆・修正する。 ・自分の考えの深まりに着目させる。 ・自分がどういう意図をもって修正したのかを明確にし、発表させる。 ・時間があれば発表する。 ・振り返りの視点(本時で学んだことやできるようになったこと、グループ共有から学んだことや気づいたこと)で書かせる。 ・なぜそのように修正したのか、思考過程に着目させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点(本時で学んだことやできるようになったこと、グループ共有から学んだことや気づいたこと)で書かせる。 ・なぜそのように修正したのか、思考過程に着目させる。

教材研究会からの変化

エラーモデルやグッドモデルを示し、生徒がゴールイメージをもちやすくする。

評価のポイントをより具体的に示す。

〈評価の観点〉

□正しく引用できている

- ・「」で『論語』を引用している。
- ・自分の考えを支える根拠となっている。

□引用した『論語』の説明がある

- ・文末表現が「～だと思う。」「～だと考えた。」などで表現できている。

□事例(体験、経験、知識)が含まれている

- ・『論語』の一節と事例が繋がっている。

□後輩に対するメッセージがある

□説得力がある

- ・事例と考えが繋がっている。

□わかりやすい表現になっている

- ・言い換え(つまり)、例示(例えば)

授業づくり講座を終えて… 高岡中学校国語科の先生方の声♪

生徒同士で学び合い、C評価の生徒をB評価に上げる手立てを講じることができた。評価規準を生徒に明確に示しておくこと、エラーモデルやグッドモデルを示すことにより、どうしたらB評価になるのかを生徒が具体的にイメージできるようになった。これらの手立てを他の教科にも提案として示すことができた。

生徒に力を付けるための単元構成や授業展開について、教科会で繰り返し検討したことで、単元を通して付けたい力を意識した言語活動が設定でき、生徒が意欲的に授業に取り組めた。また、「名前も知らない先輩から言われたらどうなんやろう?」や「どういう場面で発表するのかな。」など相手意識をもって取り組むことができた。

教科書以外の論語に触れることで、たくさんの知識やこれからの人生に役立つ教養を知ることができ、授業後にも「論語」の一節を用いて話をする様子が見られ、読書を通して自己を向上させようとする、学びに向かう人間性の部分の目標を達成することができた。

今後の取組

今後も資質・能力をつけるための授業内容の検討を教科会で繰り返し行い、引き出したい振り返りを想定して、その振り返りが引き出せるような授業を仕組んでいきたい。また、単元のはじめに、生徒と評価規準を共有し、どのような力を単元で付けるのかを意識して授業に取り組ませるようにしていく。研究主題である「学びに向かう内的動機向上」を推進していくためにも、生徒にとって取り組みやすく、必然的な言語活動を設定し、教科の全体計画との調整をしながら、適切な取り組みを探っていく。

【参加した先生方の声】

単元を通して付けたい資質・能力を意識した授業を、他の先生方とブラッシュアップしていくことで、自身の授業改善に生かせる要素をたくさん見つけることができた。生徒の単元末(ゴール)の姿を念頭において授業を組み立てていくことが大切だと改めて感じた。ICTを活用した授業についても参考になった。